

3種類の餃子とトムヤンクンで

文化事業委員会

～食文化の交換交流～

第22回異文化交流サロン 平成17年7月3日(日)



さすが！丸めた団子が簡単に薄い皮になる
(史さんのグループ)



かわいいお料理人さんたちは
形抜きで餃子の皮作り

みんなで作って、みんなで食べ比べ。「食文化の交換交流」もこれで3年目、いよいよ恒例の行事となりつつあります。

今回は、遼寧省の餃子と陝西省は西安市の餃子、そして日本の餃子。粉をこねるところから始まりましたが、皮の作り方もいろいろで、中国の方のように丸めた団子から薄い皮にする方法、薄くのしたものを湯飲みなどでクッキーのように型抜きする方法など習いました。中身もまたいろいろ。西安の餃子にはレンコンやセロリが入って、歯ざわりのよいおいしいものでした。

中国の餃子はいずれも水餃子で、たれも微妙にちがうものの、どちらもおいしくいただきました。日本の餃子と言えば、焼餃子が主流。中国の方々も喜んで食べてくださいました。

タイ料理は、守山市にお住まいの船岡ブラニさんに教えていただきました。タイの代表的なスープ、トムヤンクンは、初めて食べた人も多かったようですが、「これ、おいしーい。」となかなか評判もよく、2つの大きな鍋はすっかり空っぽになりました。



トムヤンクンの作り方を
指導する船岡ブラニさん

近頃では材料が手に入りやすいので、意外と簡単に作れそうです。春巻を使ったハッペンセンという炒め物も好評でした。

ナンブラー(タイの魚醤)もにんにくもたくさん入ったようだったのに、そんな強烈な感じもなく、おいしくいただきました。

今回の食文化交換交流は、中国・タイ・日本の料理だったにもかかわらず、ブラジルの方もペルーの方も、守山から、津から、大津からと前日ぎりぎりまで参加のお申込みがあり、料理を楽しんでいただきました。

お料理の後は、ペルー国籍の許田(キヨダ)兄弟がピアノ演奏や民族舞踊の飛び入り。そこへまたペルー女性マーベルさんも突然の参加で許田貞治郎君と踊るといいうれしいハプニングあり、マジックあり。

西安の餃子を指導してくれた牛さんも今度はマジックに挑戦したりといったカラフルな行事となりました。次回は何の料理？お楽しみに。



ペルーの民族舞踊に見入る参加者

この夏もまた熱く！ 姉妹都市パーミンハム市から親善使節

スージーさん、初めての日本・滋賀・東東 そして古い友・新しい友

アメリカ・ミシガン州と滋賀県とは1968年に姉妹提携し、使節団の派遣・受入をそれぞれ隔年ごとに行っています。

今年はミシガン州から32人の親善使節団一行が来日しました。

このうち1976年に当時の東東町と姉妹都市提携を結んだパーミンハム市から、親善使節としてスージー・ロバーツさんが7月15日(金)に東東市を訪れ、市役所を表敬訪問したあと、6日間にわたって市内RIFA会員の宮城宗己さんご夫妻宅に滞在しました。

アール&スージー・ロバーツ夫妻

スージーさんは、1984年に初めてミシガン州・滋賀県の姉妹都市プログラムのことを知って以来、夫の故アール・ロバーツさんとともに、東東からの数多くの使節団員のホームステイを暖かい心で引き受けてくださいました。

さらにホストファミリーの方たちのリーダーとして、滞行者全員をパーティーや見学先に案内・同行したり、自宅に招いたりしてお世話してくださったのです。

スージーさんはアールさんの遺志を受け継ぎ、その方々にもう一度お会いしたい、また新しい出会いも求めたいと、この度初めて来日する事を決意されました。

その思いの深さと、こまやかな情愛溢れた方であるということは、持って来られた分厚い2冊のファイルでよく分かりました。今はもうどこにも見つけれないであろう東東町からの印刷物、古い友の名刺・手紙がぎっしり、きれいにファイルされていました。

交流の継続を！ウィングブラザ歓迎レセプション

文化事業委員会

7月15日(金)午後6時過ぎ、ウィングブラザに着いたスージーさんは、弦で弾く大正琴・ピオリラによる「琵琶湖周航の歌」が演奏されるなか、RIFA会員や、かつてスージーさんのお世話になった市民らから大きな拍手で迎えられ、レセプション会場に入場しました。

しばし新旧の友と楽しいひとときを過ごしたスージーさんは、自由にお取りくださいと、かわいく、楽しく、おもしろいお土産をたくさんテーブルに並べてくださり、参加者はどの人もどれにしようかと迷うなど、ほほえましい一幕もありました。



「みなさんとの交流が楽しみです。」とあいさつするスージー・ロバーツさん



スージーさんのお土産にもお人柄が溢れて



アメリカ民謡などをピオリラで演奏する
中井千恵美さん・西川直子さん

またアトラクションとして、かつてスージーさん宅に滞在した藤崎信さんと堀池正愛さんが、ロバーツ家の皆さんと一緒に撮影したビデオを映写しました。



スージーさん宅に滞在した若者二人がビデオを映写して説明

「7年前に使節団員としてホームステイしたあと、2人でロバーツ家を再度訪問しました。

お客様扱いをせず、我が子のように扱ってくださるファミリーにあらためて強い感動を覚えています。

ご夫妻からは、家族を大事にするのを学びました。今でもEメールのやりとりが続いています。」と語っています。

スージーさんも「パーミンハム市と東東市との友好関係を発展させるためにも、この相互交流の継続が最も重要です」と話していました。

一度だけ出会ってそれで終わりで

は、どこが寂しい。

ましてや、一度会っただけでお互いのことが分かったなどということはありません。

市民は市民同士、地域は地域同士、行政は行政同士の友情を育てるような形で将来的にもつながっていく、そういう姉妹都市提携のあり方を若い二人の体験が示唆しているように感じさせる意義深いパーティーでした。



レセプション参加者全員で記念写真

さらに続く多彩な日程

スージーさん、比叡山バスツアーへ

スージーさんは17日(日)にはRIFA/バスツアーで世界遺産である比叡山延暦寺とガーデンミュージアム比叡に行きました。

日本の文化や近江の夏を体験しながら、ホストファミリーや市民らとの交流を深めました。

1200年という歴史に感嘆し、日本語で説明する直家モネのロボットに微笑み、帰り道で見た蓮の花の美しさにも感動するそんなスージーさんのお人柄に古い友人はもちろんのこと、初めてお会いした人たちも親しくなるのその時間はかからないようでした。



記録をつくるスージーさん



ガーデンミュージアム比叡で



蓮の花の前で

役員たちと市内見学

19日(火)、役員たちと旧和歌山本舗と環境センターを見学したスージーさんは、昔の東東・今の東東の話を興味深く聞きました。環境センターでは英語でのビデオで東東市のゴミ処理について学習、そのビデオを見るのならば見たいというほどの熱心さでした。

お好み焼き屋さんでは、マスターの徳前に感心し、その味も気に入られたようでした。その後は書道体験で、色紙に「友」の字を書き上げられました。

ホストファミリーと信楽見物・ 旧友たちとホームパーティーなど



旧和歌山本舗で



お好み焼きは「お気に入り」に参加

ホストファミリーの宮城さん一家とも信楽での作陶や、ホームパーティーなどを楽しみました。

夏のプログラム終了後も東東市に戻って来られて、以前お世話した方々と友情を確かめ合いました。

(佐々木さん)

熱い夏続く！ 東東市民夏まつり 8月7日(日)

市民主催の夏まつり「りっとう市民夏まつり」が、手原駅と市役所を結ぶ「いちよう通り」と市役所前を中心に行なわれました。通りには夏まつりの旗が目立ち、仮設の模擬店が人気を呼び、沿道を埋めつくした市民とともに、お祭り気分をいやがらすにも盛り上げていました。

午後3時過ぎ、パレードは立命館大学のバトントワリング部を先頭に始まりました。昨年、パレードに参加したベレーのダンスチーム、**ミ・ベレー**の踊りは、今回はRIFA応援の特設ステージでの出演となり、まつりの雰囲気になにがすっかり定着した感じで、昨年以上にいっそう華麗で本格的なベレーの踊りを披露、訪れた見物客の視線を一手に集め、魅了しました。

昨年から参加したRIFAのブースは、展示を見たり、資料をもらう人、交流協会について質問したりする人で賑わい、役員さんたちも汗だくで対応に追われていました。来年はさらに盛り上げていきたいものです。



見物客を魅了したベレーの踊り



RIFAのブース

van Leijden

この夏、オランダは冷夏でした。6月には気温が30度もあった日もありましたが、そう長くは続かず、それ以後はほとんど毎日雨で、気温は15度くらいでした。

前回お話したように、オランダの人たちは国内でキャンプをするのが好きです。こんなお天気の悪い日でも、多くの人がキャンプを楽しみます。明るい太陽の外国に旅行する人もたくさんいます。だれもこの夏がこんなに雨続きだとは予想しませんでした。

旅行会社は最後の最後まで海外旅行を希望する人たちがごったがえし、祝日の旅行ともなると価格は倍にもなりました。

お店では、夏物のセールが催され、この天候のためにもう冬服が売り出されようとしています。みんなコートのような暖かい服を買いたいと思っているようです。

人々は何もかも秋を日々働き、クリスマスのようなパーティがたくさん開かれる12月を待っています。



スーザン(スザンヌ) さんを訪ねて

スーザンさんのホストファミリーだった高校1年生の宮城妙由子(みやぎみゆこ)さんが、帰国して数か月後のスーザンさんを訪問しました。以下は妙由子さんのお話です。



Scheveningenという有名な浜辺の前で

スーザンさん(右)と

航空からアムステルダムへのスキポール空港まで約10時間の空の旅。空港へはスーザンが車で迎えに来てくれました。空港から彼女の家までは1時間ほど。車内からは広い平原のみぎひだりに風車が見え、オランダへ来たんだと実感しました。平原には馬や牛が放牧されていたり、個人の馬を数匹させている風景も見られました。

オランダの人は乗馬が好きだと聞いていましたが、スーザンも例外ではなく自分の馬を持っていて、障害レースなどにしたりするそうです。私も勧められて乗って見ましたが、ちょっと怖くて、5分くらい乗っているのがやっとでした。

チューリップが咲き誇るKeukenhofという観光の花園に連れて行ってもらいました。

その中には木靴を売るお土産店があって、壁一面はもちろんのこと、天井からもぎょりと色とりどりの木靴が吊るされていました。サイズは赤ちゃん用の12センチくらいから大人用の30センチ位まであり、売り物でないけれど1メートル近いものもありました。農耕用の木靴も売られており、これは今でも使用している人もいると聞いて驚きました。

「アンネの日記」のアンネ・フランク・ハウスにも行きました。そこには私以外の日本人観光客もいましたが、Eftelingという遊園地では、ほとんど外国人は行かないところのようで、ちょっとジロジロ見られました。

中でも興味深かったのは、Madurodamという遊園地で、オランダの街とその近郊が縮小された模型のようなものでした。ここをまず訪れてから、見所を決めるのも一つのアイデアかもしれません。



ずらりと並ぶ木靴

一対大きな木靴を置く
妙由子さん

(妙由子)

おろみ多文化交流フェスティバル2005、RIFAも応援!

昨年初めて開催された「おろみ多文化交流フェスティバル」が今年も開催されます。

大津市の琵琶湖ホールではコンサートと多文化共生を語り合うシンポジウム、多文化の体験コーナー。その周辺では学生広場、多文化のパレードなど華やかに繰り広げられます。9月18日(日)午前10時から午後7時30分まで。東東国際交流協会は昨年引き続き、「おろみ多文化交流フェスティバル」を応援しています。

(おろみ多文化交流フェスティバル実行委員会 TEL077-526-2929)

訃報

前会長 緒桐光三郎さんが7月10日ご逝去されました。初代会長としてRIFAの設立と運営に尽力され、退任後は顧問として会の一層の発展のためご支援くださいました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

最近、市内のどこでも地域や家庭で花作りをされているところが多く見られるようになりました。通りすがると、何気なく心が和みます。以前イタリアに行ったとき、どこの家庭のベランダにも花があったことを思い出しました。花が持つ素晴らしい気持ちは世界のどこでも、人の気持ちを豊かにしてくれます。

花作りをしている私も、そんな気持ちでご近所に園いをお届けしたいものです。(S.M.)

